

鳥海ダムだより



2005.9
第12号

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所



鳥海ダム 早期「建設着手」に向けて

鳥海ダム調査事務所長 菅原 信雄

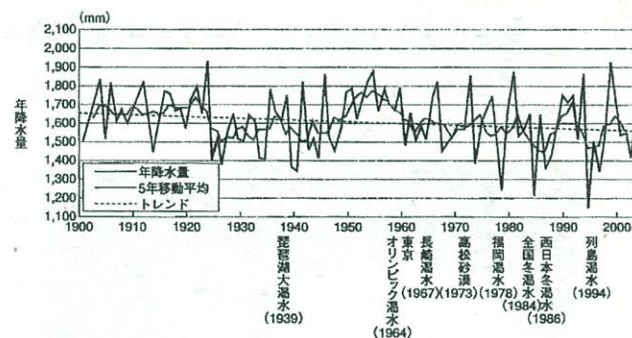
7月1日付で鳥海ダム調査事務所長の職に就きました菅原と申します。よろしくお願ひします。

鳥海山の美しい稜線を、四季折々の優しい姿を50年近くも大曲、横手、湯沢の方面から望み、県民の誇りとして愛で、そして、その裾野に広がる心豊かな人々の生活を偲んでまいりました。今、梅雨空の合間に仰ぎ見る鳥海山は大きくより美しく、由利本荘を一つにゆったりと日本海に流れる子吉川、穏やかな心情に浸っております。

しかし、ふり返れば洪水氾濫に痛めつけられ、水不足に喘ぐ歴史を繰り返してきたことは、我が国土条件の宿命ながら、この地域にも厳然と残されております。この厳しさと戦いながら、今日の礎を成してきた先人達のご努力には感謝しつつも、今もって水を取り巻く環境の脆弱さを強く感じております。

ところで、「災害」とか「防災」ということへの関心が著しく高まりを感じる昨今です。災害が起こると「大変だ」という言葉を発しますが、災害が起こるのは地球の一部でその営みが「急変」するからです。そして、「急変」の最たるものは地震であ

り、それに伴う津波であります。近年の降水量の激しい変動（図）も、長い地球の歴史からみれば「急変」に違いありません。かつて経験がないほどに、水が多すぎて（洪水）少なすぎて（渇水）世界中で人々が苦しんでいます。↗



出典：「平成16年版・日本の水資源」国土交通省（2004）

図1 日本の年降水量の経年変化

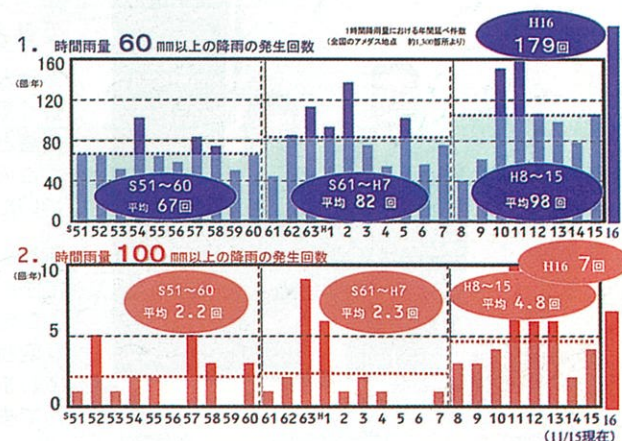


図2 集中豪雨の発生状況

生命体は、環境の大きな変化に対しては自らを進化させることで順応してきましたが、急変には必ず犠牲を強いられてきました。環境の急変に対して進化の暇を持たない私たちにとっては、事前の「備え」をしてその犠牲を払い除けていかなければならず、その具体的手段として堤防やダム貯水池（上流遊水池）などのハードの整備、防災マップや情報伝達・避難体制などソフトの仕組みづくりが必要です。

当事務所が調査、設計を担当している鳥海ダムは、子吉川の水量の急激な変化を緩和し、子吉川の水に関わる人々の安全性を高め、安定した暮らしを支えるものであります。鳥海ダムを建設するには、このことが子吉川の整備計画に明確に位置づけられる必要があります、それを受けてダム事業に伴う環境影響評価の段階へと進むことになり

ます。

東北地方整備局では、秋田河川国道事務所及び当事務所が事務局をして、今年度「子吉川水系河川整備計画」を策定することとしており、地域の人々のご意見や学識経験者のご助言を踏まえて、より実効性があり生活・文化の向上に寄与する計画となることを期待しております。また、計画の一翼を成す鳥海ダムについても、地域のご期待を糧として、人々の安全・安心を第一義としつつも、自然環境への影響の最小化には細心の留意を怠りなく計画を進めて参ります。

具現への道のりが長すぎるとのご叱責を真摯に受け止め、一日も早い建設着手に向けて職員一丸となって努めて参りますので、引き続きご指導、ご支援をよろしく願います。

永年勤続者等表彰式

東北地方整備局では、国土交通省が毎年7月16日に定めている「国土交通Day」の一環として、建設事業に功労のあった個人及び団体に対する国土交通大臣表彰の伝達式等を行っています。

今年度の伝達式は7月21日にメルパルク仙台を会場として行われ、当事務所からは2名の職員が永年勤続表彰を受けました。

永年勤続者等表彰 受賞者

- ・勤続30年表彰 小野寺 絹子（総務課 専門職）
- ・勤続20年表彰 阿部 淳（総務課 総務係長）



受賞者からのコメント

★あっという間の30年、一つ一つ思い起こせば長～い30年。ここまで長く勤めてこられたのもひとえに職場のみなさま、そして家族のお陰と改めて感謝しております。

この先もう少しがんばろうと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。(小野寺)

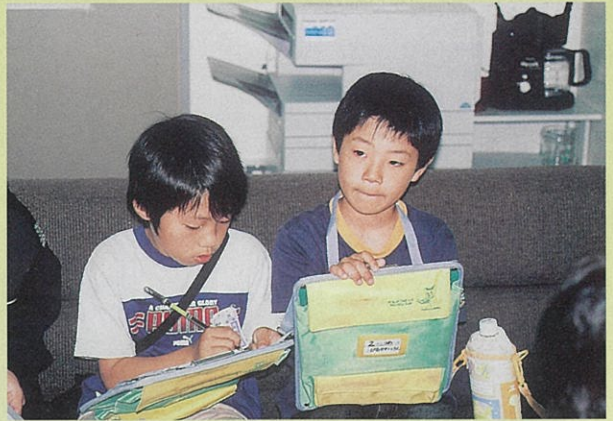
★昭和60年の入省以来、20年間あっという間に過ぎてしまった感じでした。

この20年間に、昭和から平成へ、建設省から国土交通省へと、様々な変貌を遂げてまいりましたが、自身の頭髪と体型も様変わりしてしまいました。□○ ですが、初心に戻って今後の業務に励んでまいりたいと思います。(阿部)

小学生の事務所訪問学習

小学校の社会科学習『町探検』の一環として、由利本荘市立尾崎小学校の3年生2人が鳥海ダム調査事務所を訪れました。

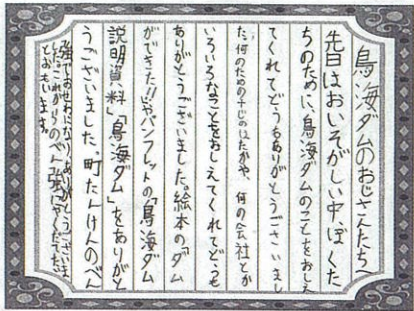
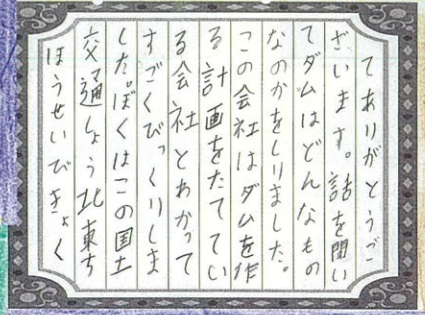
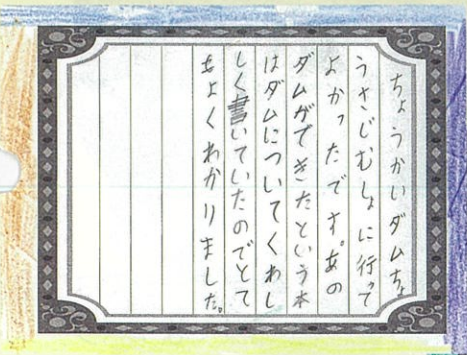
事務所訪問の数日前、学習テーマを見つけるために市内を探検していた子供達は、鳥海ダム調査事務所の構内に掲げている安全旗（白地に緑色の十字マーク）について興味を持ち、当事務所を訪問先に決めました。



子供達は職員から安全旗の説明を受けると共に、ダムの話や事務所の仕事などについても熱心に聞き入り、鳥海ダムへの理解と関心を深めてくれたようです。



子供達から
お礼の手紙が
届きました！



6月4日

鳥海新緑まつり



春の農作業が一段落したお祝いである“さなぶり”の恒例行事として、由利本荘市鳥海町の鳥海健康広場にて「鳥海新緑まつり」が開催されました。このお祭りは旧鳥海町で毎年6月上旬頃に行われており、今年で18回目の開催となります。

当日は朝から時折小雨が降る薄曇りの空模様でしたが、4,000人ほどの観客が訪れた会場の熱気で雨雲も次第に遠ざかり、昼頃からは次第に陽も差しはじめて、新緑の季節らしい気持ちの良い天気となりました。



会場は色々な出店や地元商工会によるバザー、商品交換会などで賑わい、野外ステージでは鳥海舞踏会による踊りの披露や愉快的な歌謡ショー、百宅そばの早食い大会などの様々なイベントが行われて、一日中大いに盛り上がりました。



百宅そばの早食い大会は、男性は1kg、女性は800gの百宅そばの早食いに挑み、その完食タイムを競います。参加者は山盛りのそばを相手に大奮闘。見ていただけでもお腹が一杯になりそうです。



鳥海ダム調査事務所も『鳥海ダムコーナー』を設けて、パネルや模型の展示、パンフレットの配布などで鳥海ダムをPRするとともに、キーホルダーづくりやカプセルすくいコーナーを併設し、大勢の子供達と一緒に楽しい一日を過ごしました。



7月4日

子吉川フェア

今年で第10回目となる子吉川フェアが、由利本荘市のアクアパルを会場として開催されました。当日は朝から天候にも恵まれ、会場は開会式前から多くの人で賑わいました。訪れた人はフリーマーケットや地元名産品の直売ブース、各種出店で買い物を楽しみ、展示パネルや子吉川に生息する水生動物の水槽などを興味深く眺めていました。



また、アクアパル前の子吉川ではカヌー体験や親子船上視察が行われ、参加者は普段あまり体験することのない川の遊びを心ゆくまで楽しんでいました。



正面広場の水辺では魚のつかみ取り大会が行われました。素早く逃げ回るヤマメに最初は戸惑っていた様子の子供達でしたが、悪戦苦闘の末、ずぶ濡れになりながらもなんとか魚を捕まえ、誇らしげに親や友人に見せていました。

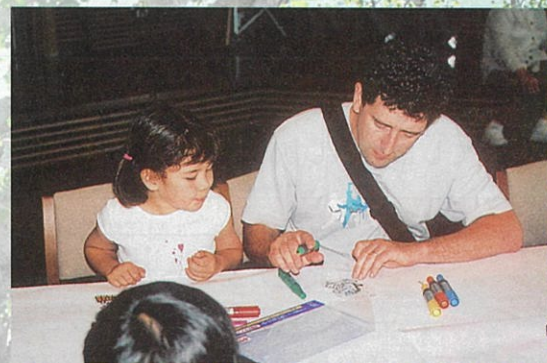


別会場では同時開催の「子吉川いかだ下り大会」も催されており、ユニークなデザインのいかだが上流から姿を現すたびに、見物客からは大きな歓声や拍手が上がりました。



鳥海ダム調査事務所も、鳥海ダムに関するパネルの展示やパンフレットの配布などを行うとともに、会場内でキーホルダーづくりや押し花教室を開きました。

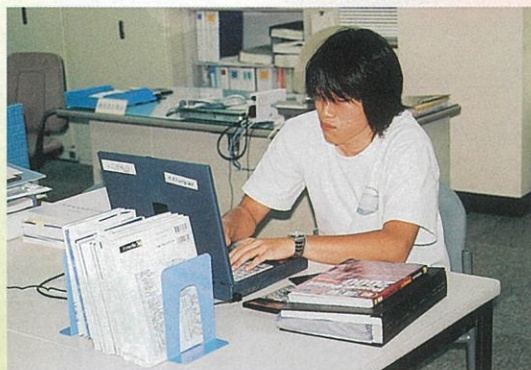
子供達は出来上がったキーホルダーや押し花を満足そうにいつまでも眺めており、夏休みの楽しい思い出の一つとなったようです。



夏 期 実 習 生 紹 介

大学生・工業高等専門学校生に国土交通行政への理解を深めてもらうため、東北地方整備局の各機関では毎年夏に実習生を受け入れています。今年は8月1日から12日までの期間、秋田工業高等専門学校から元気な実習生がやって来ました。

実習生は鳥海ダムに関する調査業務を中心として様々な仕事を体験するとともに、水没予定地での現場実習なども精力的にこなし、最終日には2週間に渡る実習の集大成として職員の前で成果発表会を行い、2週間に渡る夏期実習を締めくくりました。



研修を終えて

環境都市工学科4年生 高橋 佑光

今回、鳥海ダム調査事務所に夏期実習生としてお世話になりました。最終目標としては、テーマに沿ってレポートを作成し、それを発表するというものでした。

そのテーマは「子吉川流域に設置されている雨量観測所データと鳥海ダムとの相関」というものだったのですが、残念ながらそのような知識は持っておらず、全く初めてという形となってしまいましたが、なんとか発表するに至りました。私は雑用みたいなことするつもりで来たのに、レポートをすることになったというのが一番の驚きです。（夏期実習という形なので仕方ないのですが。）

また、実習の過程として、去年の洪水による災害現場、鳥海ダム建設予定地の見学などもあり、非常に充実感のある内容となりました。

公務員の方々の職場というのは初めて見たわけですが、持っていたイメージとは全く違うものでした。技術系といってもそれ以外の仕事もあるようで、みなさんとても忙しそうです。そんな中にお邪魔してしまい申し訳なく思います。みなさんありがとうございました。

編集後記

東北地方を襲った強い地震や、西日本を中心に大きな爪跡を残した台風14号、また、甚大な被害をもたらした米国のハリケーンなど、国や地域を問わず、各地で大きな自然災害が発生しています。

被害に遭われた方の生活が少しでも早く元に戻れることを願うとともに、いつか必ずやってくる本番に備えて、防災に対する心構えが日頃から重要であると改めて確認させられた夏でした。

編集・発行

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所

〒015-0074 秋田県由利本荘市桜小路32-1 TEL.0184-23-5120 FAX.0184-23-5451

ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/> e-mailアドレス chokai@thr.mlit.go.jp